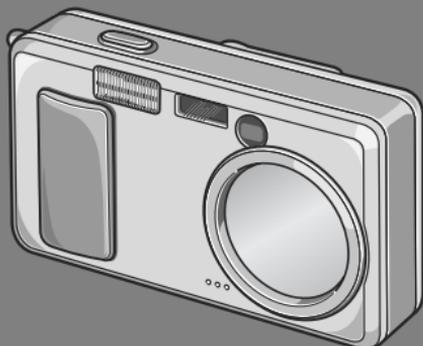


使用説明書 (カメラ・導入編)



- 1 すぐに使いたいとき
- 2 いろいろな撮りかた・再生をしたいとき
- 3 カメラの設定を変更したいとき
- 4 ソフトウェアをインストールするとき
- 5 お困りのときは



ご注意!

ケーブルの接続は、ちょっと待ってください。

付属のソフトウェアをパソコンにインストールする(入れる)前に、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続すると、カメラとパソコンを接続するためのソフトウェアが適切にインストールされない場合があります。

付属のソフトウェアをインストールしたあと、カメラとパソコンを接続してください。

インストール方法はP.110をご覧ください。

■ マニュアルについて

付属のソフトウェアの使いかたについての説明は、『使用説明書(ソフトウェア編)』として同梱の CD-ROM に PDF データで収録されています。

表示方法はP.112をご覧ください。



はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。

本製品の機能を十分に活用いただくため、ご使用前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

- | | |
|-------------|---|
| 安全上のご注意について | 安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。 |
| テスト撮影について | 必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。 |
| 著作権について | 著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。 |
| ご使用に際して | 万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。 |
| 保証書について | 本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。 |
| 電波障害について | 他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 <ul style="list-style-type: none">・テレビやラジオなどからできるだけ離す・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える・コンセントを別にする <電波障害自主規制について>
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 |

本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。

© 2004 RICOH CO.,LTD.

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。

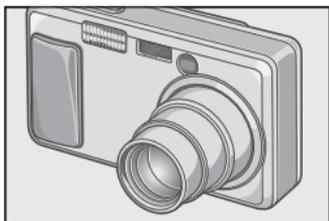
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。

Microsoft、MS、Windows、DirectX は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh は米国その他の国で登録された米国 Apple Computer,Inc. の商標です。

Adobe および Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

このカメラでできること



4.8 倍高倍率ワイドズームレンズを搭載

厚さ 25mm の薄型コンパクトボディに、通常撮影領域をカバーする 28 ~ 135mm* の光学 4.8 倍ワイドズームレンズを搭載。室内から風景まで、さまざまな撮影シーンに対応できます。

*35mm 判カメラ換算値です。



一瞬のチャンスを逃さない速写力 (P.25)

レリーズタイムラグ 0.1 秒を実現。リコー独自の高速フォーカシング「ハイブリット AF システム」で、動きのある被写体もきっちり捉えることができます。



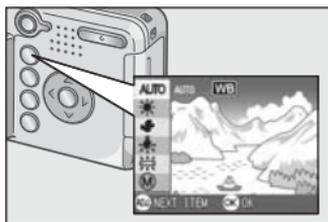
1cm マクロ (P.31) & 望遠時 13cm、 広角時 20cm 対応近接フラッシュ (P.32)

被写体まで 1cm の超アップで撮影可能な接写機能を搭載。フラッシュは望遠時 13cm、広角時 20cm の近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。



三脚使用時も楽々フォーカスロックができる AF ターゲット移動機能 (P.61)

AF ターゲット移動機能を搭載。マクロ撮影時に、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができます。



最適な設定へ簡単に変更できる ADJ. (アジャスト)ボタン(P.47)

通常のボタン操作を短縮させてくれるのが ADJ. ボタン。露出補正やホワイトバランス、ISO 感度の設定も、少ないボタン操作でラクラク設定できます。また、必要に応じて機能を割り当てることもできます。



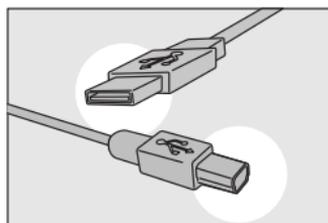
1 秒間に 30 フレームの高画質・音声付き動画(P.77)

320×240ピクセルの高画質、1秒間に30フレームのなめらかな音声付き動画が撮影できます。



簡単に美しく撮影できるシーンモード (P.33)

シーンモードでは、6種類あるシーンの中から撮りたいシーンを選択するだけで、最適な設定で撮影できます。



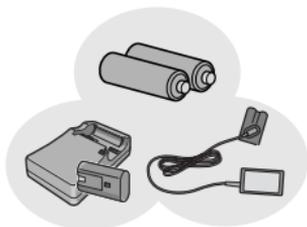
USBケーブルでパソコンへ一発転送

付属ソフトウェアをパソコンにインストールしておけば、カメラとパソコンをUSBケーブル(付属)でつなぐだけで、自動的にパソコンに画像が転送できます。



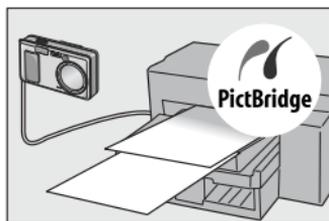
より美しい画像に仕上げる画像補正機能付きソフトウェアを標準装備

付属の画像編集ソフトウェアCaplioViewerは、明るさ、色合い、コントラストなどを自動的に補正する画像自動補正機能を搭載。画像の一部を切り取りしたり(トリミング)、画像サイズを縮小することもできます。



撮影チャンスを逃さない3電源方式 (P.16)

外出先でも入手しやすいアルカリ乾電池をはじめ、最大5,000枚の連続撮影が可能な大容量の専用リチャージャブルバッテリー(別売り)、パソコンへの転送時に便利で経済的なACアダプター(別売り)と、3種類の電源に対応しています。



パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能 (P.42)

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。

1章 すぐに使いたいとき

撮影の前に	10
パッケージを確認する	10
カメラの各部の名称	12
液晶モニターの表示について	14
撮影の準備をする	16
使用できる電池	16
SDメモリーカード(市販)について	19
乾電池とSDメモリーカードをセットする	20
電源をオン・オフする	21
日時を合わせる	22
画面表示を切り替える	23
撮影する	24
カメラの構えかた	24
一瞬を逃さない撮りかた(一気押し)	25
ピント合わせを確認して撮る(半押し)	26
被写体が中央にないときには(フォーカスロックで撮る)	28
ズームを使って撮る	30
接写で撮る(マクロ撮影)	31
フラッシュを使う	32
シーンに合わせて撮る	33
再生する	34
撮った静止画を見る	34
一覧にして見る(サムネイル表示)	35
静止画を拡大表示する	36
テレビの画面で見る	37
削除する	39
いらない静止画を消す	39
複数を一度に削除する	40

2章 いろいろな撮りかた再生をしたいとき

ダイレクトプリントで印刷する	42
ダイレクトプリント機能について	42
カメラとプリンターを接続する	42
静止画を印刷する	43
いろいろな撮りかた	47
ADJ.(アジャスト)ボタンの使いかた	47
撮影設定メニューについて	48
撮影設定メニューの操作方法	49
露出を変えるには(露出補正)	50
自然光や照明光を使うには(ホワイトバランス)	51

撮影感度を設定するには (ISO 感度)	53
文字撮影のときの濃淡を変えるには (文字濃度)	54
ホワイトバランスを変化させて連続撮影するには (ホワイトバランスブラケット)	55
画質モード / 画像サイズを選ぶには (画質・サイズ)	57
手動でピントを合わせて撮影する (フォーカス)	59
AF ターゲット移動機能を使う	61
静止画の質感を変えるには (シャープネス)	62
測光方式を変えるには (測光方式)	63
露出を変化させて連続撮影するには (オートブラケット)	64
セルフタイマーを使う	65
長時間露光を設定するには (長時間露光)	66
一定間隔で自動撮影する (インターバル撮影)	67
シャッター速度を制限するには (スローシャッター速度制限)	69
静止画に日付を入れるには (日付入れ撮影)	70
音声付き撮影をするには (音声付き撮影)	71
撮影設定メニューの設定を元に戻す (撮影設定初期化)	72
連写で撮る	73
連写のとき	75
S 連写のとき	75
M 連写のとき	75
S 連写 / M 連写した静止画を拡大して見る	76
動画を撮影・再生する	77
動画を撮影する	77
動画を再生する	78
音声を記録・再生する	79
音声を記録する	79
音声を再生する	80
再生モード時のその他の機能	81
再生設定メニューについて	81
再生メニューの操作方法	81
自動的に順に表示する (スライドショー)	82
削除できないように設定する (プロテクト)	83
プリントサービスを利用する (DPOF: ディーポフ)	86
画像サイズ縮小する (画像サイズ変更)	89
内蔵メモリーの内容をカードへコピーする (CARD へコピー)	90

3章 カメラの設定を変更したいとき

カメラの設定を変更する	92
セットアップメニューについて	92
セットアップメニューの操作方法	93
SD メモリーカードを使えるようにする (初期化 [カード])	94
内蔵メモリーを初期化する (初期化 [内蔵メモリー])	95
液晶モニターの明るさを調節する (LCD 輝度調節)	96
ADJ. ボタンに機能を設定する (ADJ. ボタン設定)	97
ブザー音の設定を変える (ブザー音)	98
画像確認時間を変える (画像確認時間)	99
オートパワーオフの設定を変える (オートパワーオフ)	100
ファイル名の設定を変える (CARD 連続 No.)	101
節電モードの設定を変える (節電モード)	102

日付時刻を設定する（日時設定）	104
表示言語を変える（LANGUAGE）	105
テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）	106
ステップズームの設定を変更する（ステップズーム）	107
設定変更の警告を表示する（撮影設定警告）	108

4章 ソフトウェアをインストールするとき

ソフトウェアをインストールする（Windows をご使用の場合）	110
付属ソフトウェアを使うために必要な環境	113
ソフトウェアをパソコンに入れる（Windows XP の場合）	114
ソフトウェアをパソコンに入れる（Windows 98/98SE/Me/2000 の場合）	116
カメラとパソコンを接続する	118
その他のソフトウェアのインストール	120
ソフトウェアを削除（アンインストール）するには	124
ソフトウェアをインストールする（Macintosh をご使用の場合）	125
付属ソフトウェアを使うために必要な環境	127
ソフトウェアをパソコンに入れる（Mac OS 8.6～9.2.2 の場合）	128
ソフトウェアをパソコンに入れる（Mac OS X 10.1.2～10.3 の場合）	129

5章 お困りのときは

お困りのときは	132
カメラ本体のトラブルについて	132
Caplio レスキューについて（Windows をご使用の場合）	137
付録	138
A. 主な仕様	138
B. 別売り品について	140
C. 各シーンモードと機能の組み合わせ	142
D. 各モード時のメニュー項目について	143
E. 電源オフで設定値が初期値に戻る機能一覧	144
F. 内蔵メモリー /SDメモリーカードの記録可能枚数	145
G. 海外でお使いのときは	146
H. 使用上のご注意	147
I. お手入れと保管について	148
J. エラーメッセージが表示されたら	149
K. アフターサービスについて	150
索引	151

使用説明書の構成について

Caplio R1 には、次の2種類の使用説明書が付属しています。

『使用説明書(カメラ・導入編)』(本書)

カメラの使いかたや機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる(インストール)方法についても説明しています。

『使用説明書(ソフトウェア編)』(PDFファイル)

付属のソフトウェアを使って、カメラの画像をパソコンに取り込み、表示、編集する方法について説明しています。

※『使用説明書(ソフトウェア編)』は、付属 CD-ROM 内の次のフォルダに収録されています。



各言語の『使用説明書(ソフトウェア編)』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。

使用説明書 (ソフトウェア編) をハードディスクにコピーするには

上記のフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。

このガイドの読みかた

第1章は本製品の基本操作について解説しています。
初めてお使いになるときは、こちらからお読みください。

その他に、このガイドでは次のマークを使って表記しています。

 注意	操作上、守っていただきたい注意事項や制限事項です。
 メモ	補足説明や、操作について知っておくと役に立つ事柄です。
 用語説明	知っておいていただきたい用語をピックアップして解説しています。
 参照	関連する機能のページを示しています。

画面例は、実際の表示と異なる場合があります。

1 章

すぐに使いたいとき

初めてお使いになるときは、こちらからお読みください。

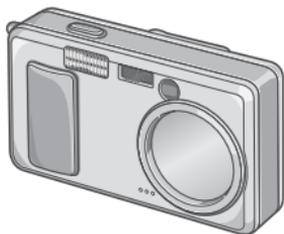
撮影の前に	10
撮影の準備をする	16
撮影する	24
再生する	34
テレビの画面で見る	37
削除する	39

撮影の前に

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。

パッケージを確認する

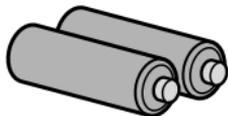
・Caplio R1



・ハンドストラップ



・単三アルカリ乾電池 (2本)



・AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。



・USBケーブル

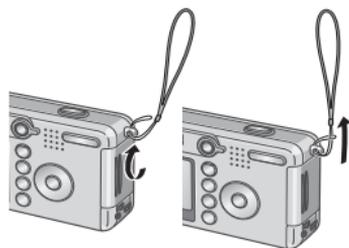
カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。



メモ

ハンドストラップのつけかた

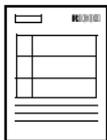
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



- ・使用説明書(カメラ編・導入編)
(本書)



- ・保証書/ご愛用者登録カード



- ・安全上のご注意

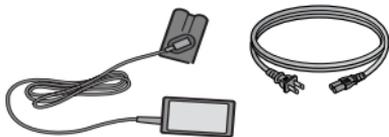


- ・Caplio Software CD-ROM
ソフトウェアと『使用説明書(ソフトウェア編)』が含まれています。



別売り品について

- ・ACアダプター(AC-4b)
家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送などにご利用ください。



- ・リチャージャブルバッテリー
(DB-50)



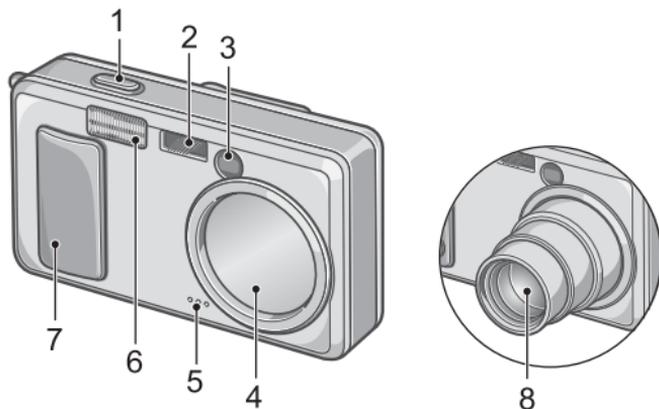
- ・リチャージャブルバッテリー
セット(BS-5)
リチャージャブルバッテリー(DB-50)と、バッテリーチャージャーのセットです。



- ・PCカードアダプター
(FM-SD53)
SDメモリーカードをパソコンのPCカードスロットに直接セットするときに使用します。
- ・ソフトケース(SC-50)
- ・SDメモリーカード(市販)

カメラの各部の名称

カメラ本体



前面

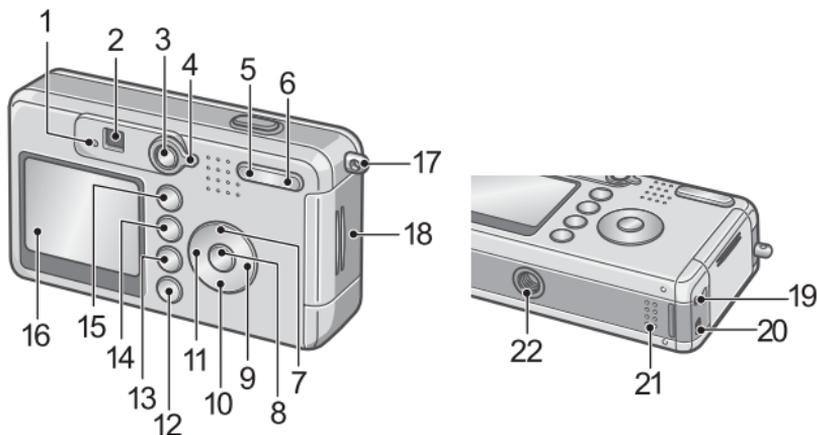
1. シャッターボタン→P.24
2. AF 窓
3. ファインダー
4. レンズカバー
5. マイク→P.79
6. フラッシュ発光部→P.32
7. 電源スイッチ→P.21
8. レンズ→P.24

モード切替ダイヤルについて

モード切替ダイヤルを切り替えると、3種類のモードに切り替えることができます。

	動画モード	動画の撮影ができます。
	静止画モード	静止画の撮影ができます。
	音声モード	音声の記録ができます。

背面



- | | |
|--|---|
| 1. オートフォーカス/フラッシュランプ→ P.26/ → P.32 | 11. ◀/⚡ (フラッシュ) ボタン→ P.32 |
| 2. ファインダー | 12. DISP. ボタン→ P.23 |
| 3. 再生ボタン | 13. 🗑️ (削除) / ⌚ (セルフタイマー) ボタン→ P.39/ → P.65 |
| 4. モード切替ダイヤル→ P.12 | 14. MENU ボタン→ P.49, P.81, P.93 |
| 5. [⏏] (広角) / 🖼️ (サムネイル表示) ボタン→ P.30/ → P.35 | 15. ADJ. ボタン→ P.47 |
| 6. [🔍] (望遠) / 🔍 (拡大表示) ボタン→ P.30/ → P.36 | 16. 液晶モニター |
| 7. ▲/MODE ボタン→ P.33 | 17. ストラップ取り付け部→ P.10 |
| 8. OK ボタン | 18. バッテリー / カードカバー |
| 9. ▶ ボタン | 19. AV 出力端子→ P.37 |
| 10. ▼/🌸 (マクロ) ボタン→ P.31 | 20. USB 端子→ P.118 |
| | 21. スピーカー→ P.78, P.80 |
| | 22. 三脚ネジ穴 (底面) |

液晶モニター の表示について

撮影するときの画面

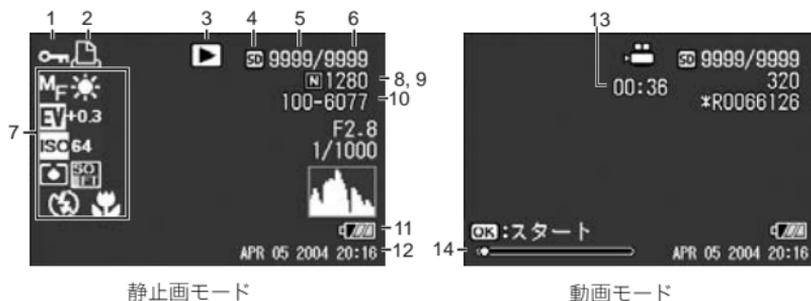


1. フラッシュ→P.32
2. マクロ撮影→P.31
3. セルフタイマー→P.65
4. モードの種類
5. 記録先→P.19
6. 残り記録枚数→P.145
7. 画質→P.57
8. 画像サイズ→P.57
9. フォーカス→P.59
10. ホワイトバランス→P.51
11. 露出補正→P.50
12. ISO 感度→P.53
13. 測光方式→P.63
14. シャープネス→P.62
15. オートブラケット→P.64
16. 日付 / 時刻→P.70
17. ズームバー→P.30
18. インターバル撮影→P.67
19. 長時間露光→P.66
20. ヒストグラム表示→P.23
21. 電池→P.16
22. 手ブレ注意→P.24
23. 絞り値→P.26
24. シャッタースピード→P.26
25. 残り記録時間→P.145
26. 記録時間→P.145

メモ

表示される枚数は撮影可能な残り枚数の概算です。撮影する被写体によっては、より多くの撮影が可能となる場合があります。また、電源の再投入やモード（静止画モード / 再生モードなど）の変更時に残り枚数の再計算を行うため、表示枚数が変わることがありますが、故障ではありません。

再生するときの画面



1. プロテクト→P.83
2. DPOF → P.86
3. モードの種類
4. 再生元→P.34
5. 再生ファイル数
6. 総ファイル数
7. 撮影時（記録時）の設定
8. 画質→P.57
9. 画像サイズ→P.57
10. ファイル番号
11. 電池→P.16
12. 撮影した日付→P.70、P.104
13. 記録時間または経過時間
14. インジケーター

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

撮影の準備をする

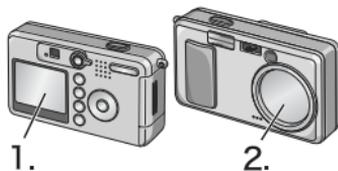
電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ

すでにお使いのお客様は、電池を着脱する前に、以下の方法で電源がオフになっていることを確認してください。

1. 液晶モニターが消灯していることを確認する
2. 1.を確認した上で、レンズカバーが閉じていることを確認する

電源をオフにする方法については、P.21をご覧ください。



使用できる電池

カメラには、次の電池が使用できます。用途に合わせて使い分けてください。

• 単三アルカリ乾電池(LR6) (付属)

どこでも入手しやすいので、旅行のときなどに便利です。

ただし、寒冷地などの低温環境では、撮影可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。

• リチャージャブルバッテリー DB-50(別売り)

リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャー(別売り)で充電して繰り返し使用できるので、経済的です。持続時間が長いので、旅行のときなどに便利です。

• 単三ニッケル乾電池(市販)

充電式ではありませんが、デジタルカメラで使用した場合、単三アルカリ乾電池に比べて持続時間が長く、便利です。

・ニッケル水素電池(市販)

充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電には市販の充電器をご使用ください。

ただし、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があります、電池本来の性能が発揮されないため、その場合には2～3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないときも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用の前には再度充電を行ってください。

なお、電池の他にも、ACアダプター(別売り)がご使用いただけます(→P.140)。



メモ

撮影可能枚数(電池の持続)の目安

電池の種類	枚数
リチャージャブルバッテリー (DB-50)	約 500 枚
単三アルカリ乾電池 (LR6)	約 200 枚

- ・枚数は、22℃、約30秒間隔、2回に1回フラッシュを発光して撮影した場合の数です。節電モードや、シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。
- ・枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間(枚数)が短くなります。



参照

- ・リチャージャブルバッテリーをセットするには→P.140
- ・ACアダプターを使用するには→P.141

注意

- マンガン乾電池（R6）およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- CR-V3 はご使用になれません。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- 単三アルカリ乾電池（LR6）の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- なお、市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用前に充電してお使いください。
購入直後や長期の保存後の充電時は、満充電にならないことがあります。充電・放電を繰り返してからご使用ください。詳細は電池、充電器の説明書をご覧ください。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。

メモ

電池の残量表示

液晶モニターの左下には、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に、新しい電池をご用意ください。

電池マーク	説明
	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の残量が少なくなっています。新しい電池をご用意ください。
	電池の残量がなくなりました。電池を交換してください。

注意

- ニッケル水素電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては、表示が出なかったり、表示や 表示がすぐに出ることがあります。あらかじめ、お手持ちの電池でご確認の上、ご使用ください。
- ACアダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

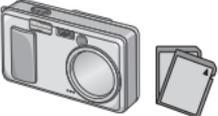
SDメモリーカード（市販）について

撮った静止画は、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、12MBです。静止画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使ったほうが便利です。

メモ

記録先について

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードに記録されます。

本体のみとき	SDメモリーカードがセットされているとき
	
内蔵メモリーに記録	SDメモリーカードに記録

注意

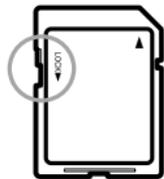
- ・SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- ・SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意しましょう。

メモ

誤って静止画を消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、静止画の削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。

なお、「LOCK」の状態になるとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。



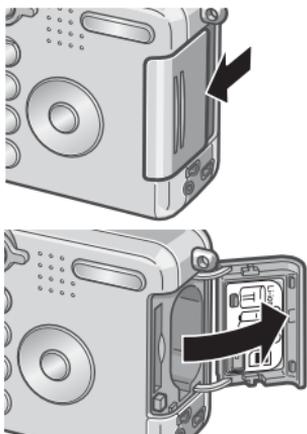
参照

- ・再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについて→P.34
- ・記録できる枚数について→P.145

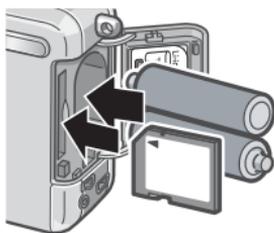
乾電池と SD メモリーカードをセットする

すでにお使いのお客様は、セットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

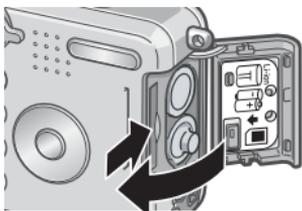
1. バッテリー/ カードカバーをスライドさせて開ける



2. SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する
先に電池をセットしてもかまいません。



3. 電池の向きに気を付けて、電池を2本入れる



4. バッテリー/カードカバーを閉じて、スライドさせる



SD メモリーカードをフォーマットするには→ P.94

電源をオン・オフする

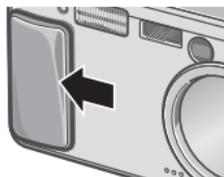
電源をオンにするには

1. 電源スイッチをスライドさせて、レンズカバーを開く

起動音が鳴り、オートフォーカス / フラッシュランプが、数秒間点滅します。

再生モードで使うときには

レンズカバーが閉じたままで再生ボタンを押すと、再生モードの状態電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。



電源をオフにするには

1. 電源スイッチをスライドさせて、レンズカバーを閉じる

メモ

液晶モニターに何も表示されないときには

節電モードが ON に設定されていると、静止画モード / 動画モード時に液晶モニターに何も表示されません。液晶モニターに何も表示されないときは、セットアップメニューを表示して、節電モードの設定を OFF にしてください。

節電モードについて

節電モードを ON にすると、液晶モニターの消費電力を少なくして、電池の寿命を延ばすことができます。

オートパワーオフについて

設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。引き続きカメラを使用したいときには、いったんレンズカバーを閉じ、もう一度レンズカバーをスライドさせて開けてください。

参照

- ・ 節電モードにするには → P.102
- ・ オートパワーオフの設定を変えるには → P.100

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1. ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

▲▼ で数値を変更し、◀▶ で項目を移動します。



2. [書式]で日時の書式を選ぶ

▲▼ で書式を選択します。

3. 画面の下部の表示を確認し、OK ボタンを押す

日時が設定されます。



メモ

電池を取り出してから約 1 週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。



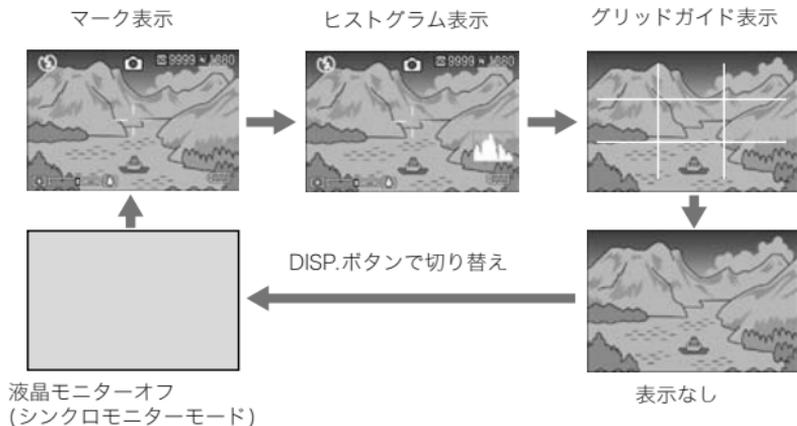
参照

- ・日時を修正するには→P.104
- ・日時を入れて撮影するには→P.70

画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示/非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

DISP. ボタンは、1回押すごとに、ヒストグラム表示→グリッドガイド表示→表示なし→液晶モニターオフ→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→…と切り替わります。



用語説明

ヒストグラム表示

液晶モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、画像の明るさを示したグラフです。ヒストグラムを活用することによって、画像の白とびや黒つぶれを防ぐことができます。

※ヒストグラム表示はあくまでも目安です。フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。

グリッドガイド表示

液晶モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、液晶モニターをオフにする機能です。節電に効果のあるモードです。シャッターボタンを半押しすると、液晶画面がオンになり、押し切ったあとに確認画面が表示され、液晶画面がオフになります。

撮影する

準備ができれば、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

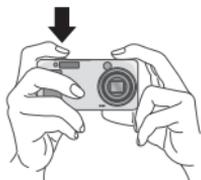
シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に写りません(手ブレ)。液晶モニターに  のマークが表示されたときには、手ブレしやすい状態を示しています。

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1. カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける



2. シャッターボタンに指を当てる



メモ

- ・指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないようにしましょう。
- ・手ブレを防ぐには、カメラを両手でしっかりと持って撮ったり、三脚を使用したりします。
- ・次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。
 - ・フラッシュを使わずに、またはスローシンクロモード (→ P.32) を使って、暗い場所で撮影する場合
 - ・ズームを使って撮影する場合

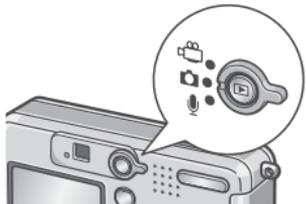
📷 一瞬を逃さない撮りかた（一気押し）

シャッターボタンは2段階になっています。
 一気にシャッターボタンを押しきる操作を“一気押し”、半分まで押す操作を“半押し”といいます。
 一気押しで撮影すると、高速でピント調整が行われ、シャッターチャンス逃さない撮影ができます。

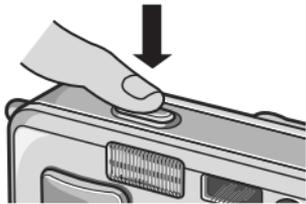
1. 電源スイッチをスライドさせて、レンズカバーを開き、電源をオンにする
 電源の入れかたについては、P.21 を参照してください。

2. モード切替ダイヤルを📷に合わせる

3. 液晶モニターまたはファインダーを見ながら構図を決める



4. 被写体が中央にくるようにして、シャッターボタンを静かに押しきる



📄 メモ

- ・撮影された静止画は、一定時間液晶モニターに静止状態で表示され、記録が行われます。(→ P.99)
- ・一気押しの場合には、手ブレを起こしやすくなります。カメラを両手でしっかりと持って撮影してください。

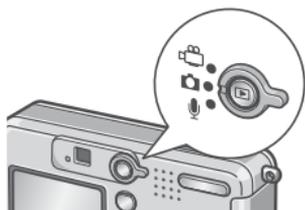
📷 ピント合わせを確認して撮る（半押し）

半押しを使う場合には、半押しによって自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきったときに撮影できます。被写体が中央にない場合の撮影時(→P.28)に便利です。

1. 電源スイッチをスライドさせて、レンズカバーを開き、電源をオンにする

電源の入れかたについては、P.21 を参照してください。

2. モード切替ダイヤルを📷に合わせる



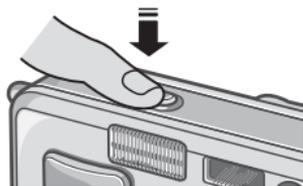
3. 液晶モニターまたはファインダーを見ながら構図を決める



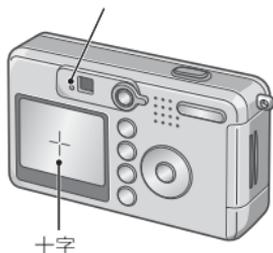
4. 画面中央部でピント合わせが行われるので、写したい被写体が画面中央にくるようにして、シャッターボタンを半押しする

ピント合わせが行われ、露出、ホワイトバランスが固定されます。

ピントが合わない場合には、液晶モニター中央部の十字は、赤く点灯し、ファインダー左上のオートフォーカス / フラッシュランプが緑色に点滅します。



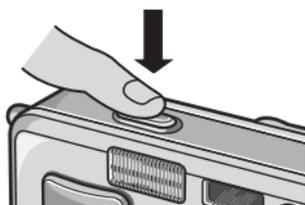
オートフォーカス/フラッシュランプ



	十字の色	オートフォーカス/ フラッシュランプ	
ピント合わせ前	白	○	消灯
ピントが合ったとき	緑	●	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤点滅	☀	緑点滅

5. シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

撮影された静止画は、一瞬液晶モニターに静止状態で表示され、記録が行われます。



メモ

- ・手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。
- ・マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。
- ・暗い場所での撮影では、ピント合わせの性能（オートフォーカスの精度）を上げるため、撮影直前にフラッシュが予備発光します。フラッシュモードが発光禁止に設定されている場合には、予備発光は行われません。
- ・セットアップメニューで[画像確認時間]がOFFに設定されているときは、撮影された静止画が液晶モニターに表示されることはありません。

参照

画像確認時間を変更するには→P.99

📷 被写体が中央にないときには (フォーカスロックで撮る)

被写体が構図の中央にないときには、ピント調整後に構図を決めます(フォーカスロック)。

例: ピントを人物に合わせたまま、背景の城を撮影したいとき

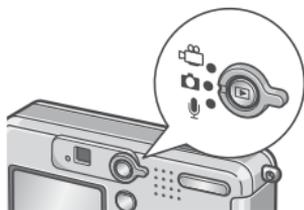
撮影したい範囲

ピントを合わせたい被写体



最終的な静止画

1. 電源スイッチをスライドさせて、レンズカバーを開き、電源をオンにする
電源の入れかたについては、P.21 を参照してください。
2. モード切替ダイヤルを📷に合わせる



3. 被写体が液晶モニターまたはファインダーの中央にくるようにして、シャッターボタンを半押しする



- 半押しのままカメラを動かして構図を決める
- シャッターボタンをそのまま静かに押しきる



メモ

マクロ撮影時には、AF ターゲット移動機能を使うと、カメラを動かすことなく、フォーカスロックを行うことができます。三脚を使用している場合に便利です。

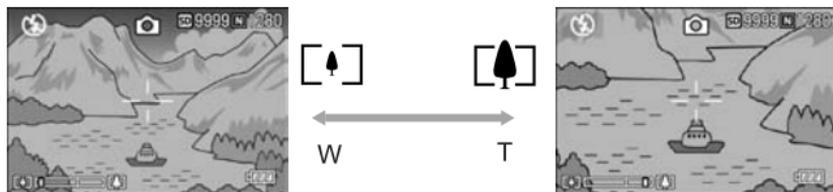
参照

- マクロ撮影について→ P.31
- AF ターゲット移動機能について→ P.61

【A】ズームを使って撮る

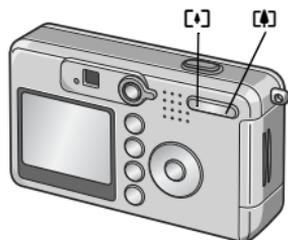
【W】(広角)/【T】(望遠)ボタンを使うと、被写体までの距離を変えずに、被写体の大きさを変えて写すことができます。

【W】ボタンを押すと、液晶モニターおよびファインダーに見える範囲が広がります。【T】ボタンを押すと、液晶モニターおよびファインダーに見える被写体が大きくなります。



1. 撮影できる状態で、【W】ボタンや【T】ボタンを押す

液晶モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。



2. 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3. シャッターボタンを押し切る



メモ

デジタルズームを使う

デジタルズームを行うと、【T】(望遠)ボタンを押して設定した拡大倍率(最大4.8倍)より、さらに被写体を拡大できます(最大3.6倍まで)。

デジタルズームを使うには、ズームバーの表示で、ズームが【T】(望遠)側の端まできたときに、いったん【W】ボタンから指を離し、再び【T】ボタンを押し続けます。

🌸 接写で撮る (マクロ撮影)

🌸(マクロ)ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます(マクロ撮影)。

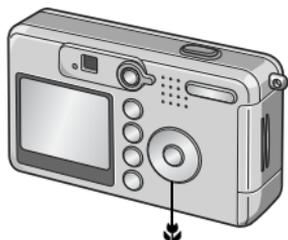
最短1cmまで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。



1. 撮影できる状態で、🌸(マクロ)ボタンを押す

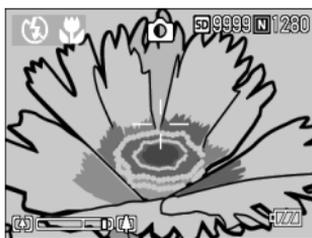
液晶モニター中央に一瞬 🌸 が大きく表示され消えた後、上部に 🌸 が表示されます。

2. 構図を決めてシャッターボタンを半押しする



3. シャッターボタンを押し切る

マクロモードを解除するには、もう一度 🌸 ボタンを押します。



📄 メモ

- ・ズームを使用しているときには、鏡胴前端から次の距離までのマクロ撮影ができます。
広角時：最短1cm
望遠時：最短13cm
- ・マクロ撮影を行う場合には、液晶モニターで被写体を確認してください。
- ・マクロ撮影では、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができるAFターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。(→ P.61)

⚡フラッシュを使う

⚡(フラッシュ)ボタンを使うと、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、発光禁止に設定されています。フラッシュの光が届く距離(レンズ前端より)は、ISO 設定が AUTO の状態で、約0.2～2.7m(W)、約0.13～2.1m(T)です。

フラッシュモードの種類

	発光禁止	フラッシュを発光しません。
	オート	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します(スローシンクロ)。

1. モード切替ダイヤルを に合わせる

2. ⚡(フラッシュ)ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える

液晶モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。

フラッシュ充電中はオートフォーカス/フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。



メモ

- ⚡(フラッシュ)ボタンを押して変更するまで、設定内容は保持されます。
- 動画、連写では、発光禁止になります。
- 暗い場所での撮影では、ピント合わせの性能(オートフォーカスの精度)を上げるため、撮影直前にフラッシュが予備発光することがあります。フラッシュモードが発光禁止に設定されている場合には、予備発光は行われません。
- 単三アルカリ乾電池お使いのときは、フラッシュ充電中は、液晶モニターの表示が消えます。

シーンに合わせて撮る

SCENE モードを使うと、6種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

	ポートレート	人物を撮るときに使います。
	スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
	遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
	夜景	夜景を撮るときに使います。 人物を入れた撮影もできます。
	文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。
	高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。液晶モニターも見やすくなります。

1. モード切替ダイヤルを に合わせる

2. ▲ボタンを押す

静止画モード選択画面が表示されます。

3. ▼ボタンを押して、SCENEメニューに移動する

4. ◆ボタンを押して、オレンジ色枠表示を移動し、モードを選ぶ

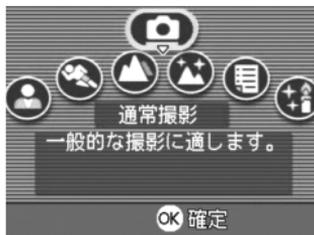
5. OKボタンを押す

液晶モニター上部にモードのマークが表示されます。

6. シャッターボタンを押す

▲ボタンを押すと、静止画モード選択画面が表示され、モードを変更できます。

通常撮影モードに戻るには、静止画モード選択画面で▲ボタンを押して[通常撮影]を選び、OKボタンを押します。



参照

- ・画質や画像サイズを変更したいときには→P.57
- ・文字のモードで、文字の濃淡を変更したいときには→P.54
- ・SCENE モード時の機能の組み合わせについて→P.142

再生する

撮った静止画を見る

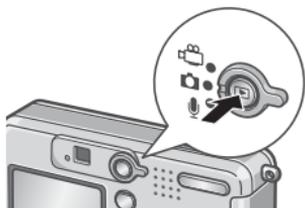
再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

1. 再生ボタンを押す

再生モードに切り替わり、最後に撮った静止画が表示されます。

◀▶ ボタンで、順番に静止画を見ることができます。

再生モードから静止画モード(または動画モード/音声モード)に戻るには、もう一度再生ボタンを押します。



メモ

再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態(レンズカバーが閉じた状態)で再生ボタンを押すと、レンズカバーは閉じたまま、再生モードで電源がオンになります。

撮影を行わない場合には、この状態で静止画などの再生やセットアップメニューでの設定ができます。

再生元について

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから再生されます。

参照

- ・動画を再生するには→ P.78
- ・音声を再生するには→ P.80
- ・音声付き静止画を再生するには→ P.71

☒ 一覧にして見る (サムネイル表示)

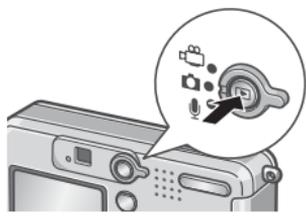
撮った静止画を一覧(6枚ごと)にして見ることができます。
 選択されている静止画を削除したり、1枚表示したりすることができます。

1. 再生ボタンを押す

最後に撮った静止画が表示されます。

2. ☒(サムネイル表示)ボタンを押す

画面が6分割されて、静止画が6枚表示されます。

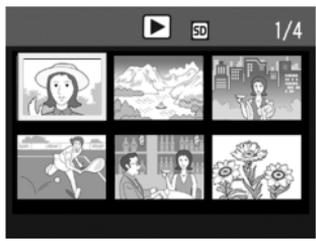


一枚表示するには

1. ▲▼◀▶ ボタンを押して静止画を選ぶ

2. Q(拡大表示)ボタンを押す

選択されている静止画



📁 参照

選択されている静止画を削除するには→P.40

Q 静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズが2304×1728のときは8倍まで、1600×1200と1280×960のときは6.7倍まで、640×480では3.4倍まで拡大できます。

1. 再生ボタンを押す

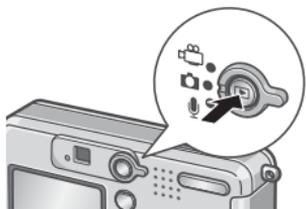
最後に撮った静止画が表示されます。

2. ◀▶ ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3. Q (拡大表示) ボタンを押す

静止画が拡大されます。

Q ボタンや  ボタンを押すことに、表示倍率が変わります。



Q ↓ ↑ OK

見たい部分に移動するには

1. ▲▼◀▶ ボタンを押して移動する

元の表示に戻すには

1. OK ボタンを押す



Q ↓ ↑ 



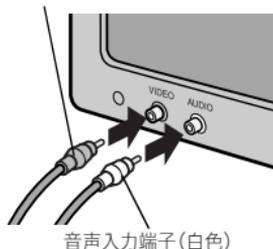
テレビの画面で見る

撮影した静止画を、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には液晶モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。静止画をテレビで見するには、次のように操作します。

1. テレビのビデオ入力端子に AV ケーブルをしっかりと接続する

このとき AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子(白色)に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子(黄色)に差し込んでください。

映像入力端子(黄色)



音声入力端子(白色)

2. カメラの電源がオフになっていることを確認する

3. ビデオ出力端子に AV ケーブルをしっかりと接続する



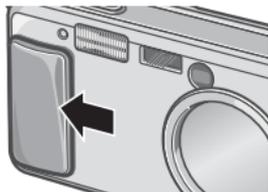
4. テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする(入力モードを「ビデオ」にする)

詳しくはテレビの説明書を参照してください。



5. 電源スイッチをスライドさせてレンズカバーを開くか、再生ボタンを押して電源をオンにする

AV ケーブルで本機を接続している間は液晶モニターの表示はオフ(消えた状態)になり、スピーカーの音が消えます。



メモ

- ・ビデオの入力端子に AV ケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- ・テレビなどの機器での再生方式は NTSC 方式（日本などで使用されている）に設定されています。接続する機器が PAL 方式（ヨーロッパ等で使用されている）の場合には、カメラのセットアップメニューで PAL 方式に設定してから接続してください。

参照

ビデオ方式の設定を変更する→P.106

削除する

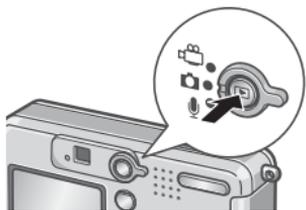
🗑️ いらぬ静止画を消す

不要な静止画や失敗した静止画を、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除することができます。

次の3種類の方法で削除できます。

- ・ 1枚(1ファイル)削除する
- ・ すべてを一度に削除する
- ・ 複数を選択して一度に削除する

1. 再生ボタンを押す
2. 1枚削除の場合は、◀▶ボタンを使って削除したい静止画を表示する
3. 🗑️(削除)ボタンを押す



4. ▲▼ボタンを押して、[1ファイル削除]か[全削除]を選ぶ

[1ファイル削除]の場合には、◀▶ボタンを使って削除する静止画を変更できます。

5. OKボタンを押す



[1ファイル削除] の場合

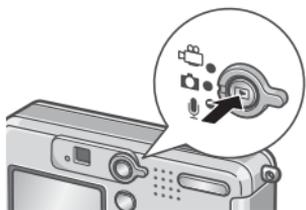
6. 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4.の画面に戻る

[全削除] の場合

6. 削除の確認画面が表示されるので、▶ボタンを押して[はい]を選び、OKボタンを押す

🗑️ 複数を一度に削除する

1. 再生ボタンを押す
2. 🖼️(サムネイル表示)ボタンを押す
画面が6分割され、サムネイル表示になります。



3. ▲▼◀▶ ボタンを押して、削除したい静止画を選び、🗑️(削除)ボタンを押す
静止画の左上にゴミ箱のマークが表示されます。
4. 手順3.を繰り返して、削除したい静止画をすべて選択する
間違えて選択したときには、その静止画で🗑️(削除)ボタンを再度押すと解除できます。



5. OK ボタンを押す
6. ▶ ボタンを押して[はい]を選び、OK ボタンを押す
処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

